

## 第8回 多摩市自治推進委員会 要点記録

日 時：令和8年2月20日（金） 19：00～21：00

場 所：永山公民館 視聴覚室

出席委員：白鳥光洋委員長、長野基副委員長、中島ゆき委員、和田あずみ委員、牛腸哲史委員、山田寛子委員

オブザーバー：一般社団法人コミュニティネットワーク協会 渥美京子理事長、中央大学国際経営学部 中村大輔教授、合同会社 MichiLab 高野義裕代表

事務局：田島協創推進室長、西村担当主査、村上、大越、永田

傍聴者：1名

議事次第：配付資料「第8回 多摩市自治推進委員会 議事次第」のとおり

### 1 開会

委員長 第8回第九期多摩市自治推進委員会を開催する。

まず、事務局から資料の確認をお願いしたい。

事務局より、配付資料の確認を行った

委員長 次に、第7回委員会の要点録の原案について、修正はないか。

修正はないようなので、これで確定とする。

### 1 協創の実現に向けた取組み・検討状況報告

委員長 まずは、次第1「協創の実現に向けた取組み・検討状況報告」です。現在の取組み状況について、事務局から報告をお願いします。

事務局より、資料22、参考資料に基づき報告

委員長 事務局からの報告は終わりました。続けて事業に関わっているオブザーバーからそれぞれのエリアでの活動の報告や今後の進め方についてご発言をお願いします。

オブザーバー 東寺方小学区では、「エリアミーティング」という、地域にデビューしたばかりの方向けのものと、エリアミーティングに参加経験のある実践を始めた方に向けた「協創ミーティング」の2層のプラットフォームがあり、2月14日（土）はそれらを合同で実施した。地域に関心をもったエリアミーティング参加者が、経験のある協創ミーティング参加者からアドバイスをもらいながら、6つのグループで具体的に取組んでみたい活動について検討した。今後もコミュニケーションツールを使ってやりとりできるように登録いただき、オンライン上でも声掛けして動かしていく。和田中での「逃走中」の取組みに、学生がハンター役として参加したいという話にもつながった。

オブザーバー 2月21日（土）にあたご未来ミーティングを実施する。20代～70代まで15名程度が参加予定。コミュニティプレイスあたごを活用してやってみたいことを引き出せたらと思っている。生きづらさを抱えた方も参加予定で、実際にやってきたことや、これからやりたいことを話してもらいながら交流の場をつくりたい。

オブザーバー 諏訪地区では、5月と11月に実施した、過去エリアミーティング参加者による企画「諏訪・永山れきし散歩」支援を行った。1月25日に開催したエリアミーティングでは参加者がSNSに前向きな感想を投稿し、その投稿に様々な人から反応があって盛り上がるなどこれまでとは違う反響が見られ、今後の発信や活動の工夫につなげたい。青陵中学区については、エリアミーティング全3回が終了している。7月と1月にこれまでつながってきた他の複数団体と共催で夜の居場所づくりを実施。エリアミーティング発の企画として、凧あげのイベントやパン屋を巡る街歩きのイベントを行って、新規のつながりも生まれている。青陵中学区では今年は特に手ごたえを感じていて、変化の兆しが見えてきている。

委員長 オブザーバー 諏訪中学区エリアミーティング後のSNSでの反響とは？  
「エリアミーティングに参加して、良い機会になり多摩市を盛り上げたい、いろんな人とつながりたい」という発信に、100を超える「いいね」があった。

委員長 事務局 協創サポーターの多摩市在住職員が3割で多い印象だが、何か意図的にしているのか？  
入庁2年目職員全員が研修対象となるため偶然ではある。地域を理解する観点では少ないとは思っている。

副委員長 東京23区に比べると多いのではないか。自分の記憶では文京区だと区在住職員は1割ほどのようだ。

委員長 地域共助を可視化できるツールとして、ツナたま補助金を活用した東寺方寺小屋の取組みの中で進められていた、地域通貨に関する勉強会がつながりそうだという話か？

事務局 実施者は地域のつながりづくりの一環で、元々、地域通貨など可視化できるツールを試したいと思っていた。イベント当日に感謝や気持ちを交換し合う方法では上手くいっていると思っているが、参加者が持って帰った後にそれがどうなるか、今後どれだけ広がっていくかが課題かという話は実施者としている。市としても地域通貨を試していったり活用事例をつくっていったりする動きを一緒に考えてサポートしていけたらと思っている。

委員長 事務局 ブームが来ては立ち消えということもある。上手くいきそうということか？  
協創フォーラムでもご質問いただけたらありがたい。来年度にもつなげていきたい。

委員長 事務局 エリアミーティングともつながっているのか？  
参加者が重なってはいるものの、エリアミーティング自体で地域通貨の取組みを行っているわけではない。今後の連携や関わりはあり得る。

委員長 事務局 市の伴走支援はどの程度行ったか？  
人や場所の紹介、広報の支援など、求めに応じて行った。

副委員長 記者クラブ等あれば、プレスリリースの投げ込み等できるが、広報面ではどのような支援ができるか。

オブザーバー 市公式Xやホームページ等でかなり告知の面でサポートいただいている。

委員長 事務局 ツナたま掲示板は継続していくのか。  
これから報告書の提出を受けるためそれをふまえて確認していく。

委員 事務局 そのあたりも協創フォーラムで聞けるか。  
そのとおり。掲示した団体からは好評だったよう。

委員 事務局 協創サポーター制度について、令和5年度以前入庁の現在の継続サポーターの方々は今後どうなるのか？

事務局 サポーターの制度からは外れ、令和8年度からは自己研鑽というかたちにする。  
委員 令和5年度以前入庁の職員の募集はせずに、新しく入った職員で地域に出て行く人が増えていくイメージか。いつ頃にどのくらいの割合になっていくのか。  
事務局 その通り、新任職員から広げていく。令和7年度の協創サポーター制度の対象者が100人程度で、常勤職員全体が800人程度。毎年度数十人～50人規模で協創サポーターが増加する。若い世代から意識を変えていきたい。  
オブザーバー 愛宕での取組みには、一度協創サポーターとして来て、プライベートで参加して下さる方もいる。そうした継続的な関係性ができるとありがたい。

## 2 諮問事項に関する意見交換

委員長 続きまして、次第2「諮問事項に関する意見交換」です。事務局から、これまでの委員会における議論を踏まえた中間答申の構成や、いくつかの論点整理等情報提供をお願いします。

### 事務局より、資料23、参考資料に基づき情報提供

委員長 資料23のP4～6あたりがこれからの議論の流れで、協議会型プラットフォームの参考となるものが参考資料に提示されたと思う。青少協や福祉分野のプラットフォームが構成員になった協議会型プラットフォームがイメージになっている。9期委員会の任期は令和8年の11月までとなっており、協議会型プラットフォームの試行等の本格化は令和9年度からとなるのではないか。その前段の考え方の整理をこの会議で検討提案する流れで良いか。

事務局 プラットフォームに関することは9期の最終答申でいただきたい。指定地域共同活動団体についての議論まで至らなかった場合等、進捗に合わせて検討していく。

委員長 コミュニティ施設の関係は、ケーススタディの素材がそろわない状態での最終答申となると理解した。質問やご意見等あればお願いします。

委員 多摩市版地域プラットフォームのあり方に関する議論では、貝取・豊ヶ丘地区を想定した議論を行うということが良いか？

事務局 貝取・豊ヶ丘地区をモデルエリアとして想定してご議論いただきたい。

委員 多摩市の中でも様々な地域があるという議論をしてきたが、地域の特色をふまえた議論が必要となるという認識で良いか。

事務局 将来的には市内各エリアに横展開していけると望ましいが、まずは貝取・豊ヶ丘地区を想定していただく方が良いと思っている。

副委員長 施設の設計の議論があったことからの質問だが、新しくできる公共施設で、ソーラーパネルで発電して、売電収入を組み込む等の想定もあるのか。活動の財源の前提として知りたい。

事務局 公共施設でも屋根貸し等の事例はあるが、売電価格が上がらない中で将来的な見込みが立つ状況にはないと聞いている。具体的に地域の収入にできるかは議論する必要がある。

副委員長 前提として契約上そのような選択肢が可能なのかを確認する必要があると思っている。

事務局 コミュニティセンターでも指定管理者制度で運営いただいているが、使用料の収入は市に入っている。現在は独自に収入をあげる動きはとっていない。

委員長 質問は収益が得られる事業を検討した方が良いのではないかという趣旨か？

副委員長 その可能性があるのか、確認していきたい。

委員長 そのあたりはこれからまた委員会で検討する内容になるか？

副委員長 協議会型プラットフォームでは持続可能な地域運営の支援という側面もある。可能であれば財源についても検討しても良いのでは。

委員長 多世代共生型コミュニティ施設整備に関する「基本計画策定支援」は委託しているが、「地域全体の管理運営検討」も委託か？

事務局 今は基本計画の策定にあたってワークショップを行っている。基本計画策定後は、P4の三層の動きを一体的に進めていきたい。

委員長 委託するということか？

事務局 プラットフォームの動きとともに施設の運営も検討できる枠組みをつくるための予算を計上している。

オブザーバー 先ほど、貝取・豊ヶ丘地区の事情に偏った議論になるのではという話があったが、活動している感触としては、ニュータウンの高齢化の話の中で今一番限界を迎えているエリアだと思う。諏訪・永山地区では一部に若返りが始まっているように感じる。一方、貝取・豊ヶ丘地区は今年の3月でまちびらき50年を迎えるが、第一次入居の住民が住み続けている。民生委員も欠員が多い。この地域で活動しているプレイヤーは使命感からやっているごく一部の限られた方で、同じ人が様々な役職を担っている。他方で、自発的に動けるような動きができてきて、そこに自分がやりたいという想いで入っている人がいる。両方の動き方を育てていかないと、地域に運営を委譲することはできないと思う。貝取・豊ヶ丘地区でできれば他にも展開できるのではないか。様々な意味で実験エリアになると思っている。

委員 多摩市に限らず、少子高齢化で担い手の課題を抱える日本全国でも事例を横展開できそう。

委員 地形の特徴もあると思う。モビリティの問題も密接に関わる。地域の特徴を捉えた方が見やすい。高低差の移動のしづらさもある。

委員 貝取・豊ヶ丘地区とひとまとめに言っても南北に広く、複合施設は南側にある。今回は、そこを中心として考えるということか。

事務局 必ずしも南側だけではなく、施設の建替事業を起点にしながらではあるが、こぶし館や北側の地域も含めた青陵中学区（貝取・豊ヶ丘地区）として考えていただきたい。

委員 人口流入が今後見込みづらく、高齢化が進む中で、縮小していく部分も一定数あるという前提か。

事務局 諏訪・永山地区に比べると、貝取・豊ヶ丘地区は建て替えまでには至っていない段階で、ニュータウン再生の計画の中では、今あるものを活用していくという方向になっている。ここ10年は新たな開発があって新しい入居者が入ってくるという見込みも持てない。

委員 駅から遠い、尾根幹線の方の南側から開発してきた経過がある。諏訪のブリリアのような若返りは起こりにくいと考えられる。北側は分譲マンションも一定数あり、新陳代謝も進んでいる。南北で印象がかなり違う。様々な実験をしていく意味があると思う。

オブザーバー 南側の方は、同じ団地でも空き家率に差があって、実際にポスティングしていてもわかる。なぜその差があるのかは不明。積極的にお祭りをを行うコミュニティがある団地等もあり、今のハードのままでも工夫の余地があると思っている。

委員 指定地域共同活動団体制度については、行政財産を使用する特定地域共同活動を検討するうえでもどういう資源があるのか知りたい。移動の問題もある。担い手の発掘の方を主にやっていると思うが、同時並行で地域の課題を整理して地域の資源とどうつなげていくかを考えることも必要なのではないか。担い手だけ発掘して、その先何をすればいいのかわからないとならないように。軽トラの貸付や空き家活用等、どのような資源なら貸付できるのかが明らかになっていた方が手を上げやすい人たちがいるのではないか。

委員長 次回以降の議論の材料として、活用可能な公共資源の一覧があると良いイメージだろう。

委員 豊ヶ丘4丁目のバス停の空間等も拠点になるのでは。

委員 課題を見えるようにする必要がある。ビジネスで解決できるものがあるのか、行政の方が取り組みやすいものなのか。基本は市が取り組みたい課題を民間に委託するプロポーザルがあるが、逆プロポーザルというものもある。民間の企業が事業を起こしたいときに、行政の課題を募集するようなこともあり、行政側が選ばれるような動きもある。この地区の課題が体系的にまとめられると良い。

委員長 企業側が解決策を持っていて、課題がある自治体に手上げしてもらいイメージで、ちょうど活用できるものがあるといい。

委員 企業側に各自治体の課題が見えるように登録されているデータベースもあるようだが、多摩市ではどうか。信頼性という観点からも行政と連携したい企業は多いのではないか。

オブザーバー 豊ヶ丘と貝取でも地域の状況や課題に違いがある。地域活動も貝取と比べると豊ヶ丘の方が活発。学校の統合当時の議論でも住民意識の差を感じた。そのような特徴もふまえて課題を精査できると良い。

オブザーバー 入居初期の段階では公団住宅の契約形態や間取り等の違いにより、生活レベルの差があった可能性はあるが、それは50年前の話。実際活動していて差があるのは感じるが、どこから来ているのかはわからない。

オブザーバー 日常の相談の中でもよく豊ヶ丘地区の団塊世代と話すが、地域ごとの温度差があるようだ。

委員 地域の中で実際に活動される方の生きる知見が参考になる。その感覚が信頼できると思う。

オブザーバー 地域のニーズや事情がわかっていると、地域に入る際も住民から受け入れてもらいやすいのではないか。

委員 課題とリソースが整理されると議論しやすくなる。

委員 リソースにはハードと人財とがある。

委員長 高浜市の「町内会加入者以外にもまちづくり協議会が機能している」というのはどういうことか？

事務局 高浜市では小学校区単位でまちづくり協議会を組織していて、ここで議論している分野横断的なプラットフォームに近い。自治会だと自治会に加入している人が対象で、学区の単位で自治会ができないことを横断的にしているよう。

委員長 町内会より広い範囲ということか。

事務局 自治会員でなくても対象になる。

委員 住民以外にも協議会に入れるのか。

事務局 構成員は在住、在学、在勤、在活動となっている。

委員 貝取・豊ヶ丘地区では、協議会型プラットフォームの中に、地域で活動している団塊世代の方にご参加いただけると地域の目線が入って良いのではないか。

委員 既存のプラットフォームとあるところは協創推進室の方で調整されると思うが、可能であればヒアリングの際に委員も一緒に直接お話を伺えると良いかもしれない。

委員 既存のプラットフォームの具体的な一覧があると良いのではないかと。自治会がどの程度機能しているのかがわかると話が進めやすい。

オブザーバー 自治会の役割も課題としてあるかもしれない。愛宕地区の自治会では、高齢化もあり、話題が社会課題にまでいかない状況。他の自治会がやっていることまで関心をもてないこともあるので、組織の範囲を越えた地域横断のプラットフォームや出かけていけるしくみが必要だと思う。

委員 具体的な実情が見えてくると、ハードルの高さや打開策も見えてくるのではないかと。

事務局 第3回会議で配布している資料12P1、2で貝取・豊ヶ丘地区の公共施設や活動団体、人口構成等の概況をまとめている。南部を中心に高齢化率が高く、世代交代がされていないところもある。移動の課題もあるため、モビリティの実証実験のエリアにもなっている。課題の洗い出しを次回までにできればと思う。

委員 マトリックスのようなかたちでまとめてもらえるとわかりやすい。

副委員長 もしわかれば、民生委員協議会の区分、介護・福祉系での相談の区分、自殺対策や引きこもりの支援等のその他の行政施策の区分、地域協議会の区分の地図があると良い。

事務局 民生委員と包括支援センターのエリアは重なっている。福祉、学校、コミュニティの分野はほぼ中学校区で重なっている。ニュータウンはおおむね街区ごとになっている。分野ごとの違いを調べたい。

委員 エリアごとの活動団体やリアルな体感のコメント、課題等がまとまると議論も一歩進む感じがする。

事務局 指定地域共同活動団体制度を導入するかは今後検討ではあるが、このエリアでの課題を解決するための特定地域共同活動となるものを検討する際にも、議論の材料になると思う。具体的な資料をできる限り用意して議論していくのが重要。資料23P5の右上に書いている年度末に試行したいと思っているプラットフォームの会議も、ただ来てもらうだけでなく、情報や課題を出して話し合っ、課題を出し合っ、一緒になってやっていく必要があると思ってもらえる場にしたい。そのために、何を用意して、どのような議論をして、どのようなプラットフォームにしていくのかを先んじて委員会のみなさんに議論していただく必要があるということが確認できた。市が見えているものだけでなく、生活者目線の生の声等のデータを用意できるようにしたい。違いを見出し始めると際限がない部分もあるので、まずは貝取・豊ヶ丘地区というくくりで考えていただく。行政的な資源という点では、国が想定しているのは公共施設かと思うが、車等の何を使えるのか、何のためにやるのかということが重要。誰が取り組むのかの点では、市、企業、コミュニティで解決するもの、それぞれあるので、資料を用意することでそういった部分を議論いただけると良いのではないかと。

### 3 その他

委員長 続いて、次第3の「その他」です。事務局より、何かあればお願いします。

事務局 3月15日（日）に協創フォーラムを行う。3月は1ヶ月間、中央図書館で関連する書籍の展示も行う。関連する取組みでもあるので、来ていただければと思う。次回は4月20

日（月）19時から、場所も同様の予定で行う。次々回は6月29日（月）で確定させていただければと思う。

委員長 質問等なければ、第8回の多摩市自治推進委員会をこれで閉会する。

閉会